

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ADDS Kids1st 鎌倉（保育所等訪問支援）		
○保護者評価実施期間	2026年 2月 13日		～ 2026年3月13日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	7人	(回答者数) 6人
○従業者評価実施期間	2026年3月1日		～ 2026年3月13日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3人	(回答者数) 3人
○訪問先施設評価実施期間	2026年1月23日		～ 2026年2月20日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	5件	(回答者数) 4件
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月24日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・子どもの発達を多角的に支える支援体制 保育所等訪問支援で集団場面においての課題を把握し、児童発達支援と連携を取っている。個別支援で獲得したスキルが集団場面で般化できているかなどの確認体制も整っている。	・児童発達支援担当者間の連携と、迅速な情報共有 日頃の療育での様子を把握した上で訪問を行っている。訪問した際に得た情報を、迅速に療育担当者や児童発達管理責任者に共有し、個別支援の課題に取り入れるなど、集団生活に必要なスキル獲得に繋がっている。	・効果的な支援方法の提案 療育場面だけでなく、それぞれの保育現場に応じた支援方法を助言していけるように、引き続き園での環境整備や先生方との連携を深めていく。
2	・明確な支援計画の構築 保護者からの希望や子どもの発達を踏まえて、ターゲットを明確にした支援計画を立てている。	・保護者への情報共有 訪問後に迅速に情報共有を行い、保育現場での様子を明確に伝えている。児童の特長を正確に把握した上で、ターゲットを明確にすることに繋がっている。	・支援体制の充実 ケースによっては現状の訪問頻度（月1回程度）が、保護者の希望（月2回程度）よりも少ない現状があるため、訪問先の予定を早めに確認してサービスを提供する。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・集団生活の構造に即した提案 個別支援で有効性が確認されている手法であっても、園の活動リズムや人員配置といった集団特有の制約により、そのままでは実施が難しい場面がありました。 現場の枠組みで実行可能な工夫について、園の皆様へご提案していくことが課題です。	・環境的な制約 はさみの使い方など個別支援で取り入れて改善されていく課題がある一方で、集団保育での立ち歩きなどの課題に対してのアプローチは各園によってそれぞれ環境的な制約（人員不足など）がある。	・訪問先とのコミュニケーション強化と、取り入れやすいサポートの提案 集団場面で取り入れやすく、先生とお子さんの成功体験を積めるための支援方法を具体的にお伝えしていく。